

<白金標準、アンダーシュートの巻き戻し期待・・・>



(出所：オアシス)

トランプ大統領は11日も「更に攻撃を行う」と言及するなど、米国とイランの停戦が頓挫するリスクが高まる中で、2月の安値である8662円と3月の安値8478円も下回る8177円まで下値を試している。しかしトランプ大統領は攻撃を中止し、イランとの合意が週末か週明け15日にも署名される可能性があると言及すると8781円まで戻りを見せるなど、リスク逃避と緩和を繰り返す動きを見せている。特に今年の2月の安値である8662円、また3月の安値8478円を下回る8177円まで売り込まれており、思惑の要因で需給要因を無視したアンダーシュートの域に思える。そのため今週は米国とイランの覚書の暫定合意で9500円まで戻りを強めて来ると思われる。特に7月6日～10日には上海プラチナウィーク2026が中国上海で開催される予定であり、5月のロンドンで開催されたプラチナウィーク2026では開催に向けて10934円まで高値を試すなど、3年連続の供給不足予想が影響したと思える。そのため目先の米国とイランの覚書の合意を受けると売り込みの要因が消え、先週の下落を巻き戻す値動きを強めて来ると思える。そのため目先の8177円が下値と思え、先週の高値9656円までの戻りに注目するのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げ止まり、シグナルは切り下げている。RCIでは短期が切り上げ、長期は下げ止まっている。特に日足が指数平滑移動平均線の下限を上回る可能性が高まっており、9400円への戻りが強まると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,370,000 円(2026 年 6 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 6 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>